

文化・芸術



「腕を伸ばした裸婦」

1925年ごろ、油彩、カンバス
15・3センチ×30・5センチ

アンドレ・ドラン

(1880～1954年)

大川美術館企画展「リニューアル
記念展 エコール・ド・パリの画家
たちと松本竣介」から

《名画の扉》

フォービスムの創始者の一人、アンドレ・ドランは、1920～30年代、「輪郭であると同時に動きや感覚でもある正確な線」を追求しながら裸婦像を描きました。本作では、光が溶け込む量豊かな肉体が描かれ、しなやかな線が、画面に穏やかなリズムを与えています。

34年、松本竣介は東京で初めてドランの作品に触れ、「画学生

(小此木)